

日本科学者会議

京都支部ニュース

10 月号 No.500

2025 年 10 月 14 日発行

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町 95-3 延寿堂南館 3 階

Tel : 075-256-3132

E-mail : board@jsakayoto.sakura.ne.jp

URL : <https://jsakayoto.sakura.ne.jp/>

ゆうちょ銀行振替口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：01050-6-18166

ゆうちょ銀行総合口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：14480-2800181

上記総合口座を他金融機関からの会費振り込みの受取口座として利用される場合は以下の内容を指定して下さい。

店名：四四八（読み ヨンヨンハチ）、店番：448、預金種目：普通預金、口座番号：0280018

目次

- ・支部ニュース通算 500 号の発行に際して（前田耕治）……………2
- ・追悼：佐藤文隆さんのご冥福を祈る（山田耕作）……………3
- ・講演報告：「もの言わさぬ国家は NO！京都のつどい 治安維持法 100 年を問う」（清水民子）……………4
- ・支部主催・関連行事案内……………6
- ・支部幹事会だより……………8

＜2025 年度会費の納入のお願い＞

新しい会計年度が始まり半年が経過しました。今年度会費の納入率は 61%にとどまっています。会費の請求が例年よりひと月遅くなったことありますが、例年（上半期で 8 割超の納入率）を大きく下回っています。このままでは、会誌の発送や全国への上納にも支障が生じかねません。

5 月に送付した会誌に同封しました郵便振替用紙に記載の金額が請求額になります。引き続き今年度会費（一般会員：14,400 円、特別会費会員：7,200 円、家族割会員：4,200 円、若手会員：4,200 円）の納入にご協力くださるよう切にお願い申し上げます。過年度分の未納会費がある方は、あわせて納入いただきますようお願いいたします。

なお、ご不明な点につきましては、支部財政担当幹事・細川孝宛にメールでお尋ねください（Email アドレスは、hosokawa@biz.ryukoku.ac.jp）。（支部財政担当幹事）

『日本の科学者』送付の電子化に関するアンケート（詳細は 9 月号に掲載）

引き続き 10 月 29 日締切で実施しています。ご協力をお願いします。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScrodHAsajDnXRKOVetb0aOz7iZpniBVjGHbe5GbIXIs0NSqA/viewform?usp=header>



支部ニュース通算 500 号の発行に際して

支部代表幹事 前田耕治

本号で京都支部ニュースは通算 500 号を迎えた。これを機に、発行第 1 号から節目の支部ニュースを辿りながら、京都支部の変遷を振り返ってみる。

JSA 京都支部は 1966 年 3 月 5 日に立命館大学で結成された。その後、『京都の科学者』を通じて支部内の通信や広報が行われていたが、「ニュース性という面で不十分なため、より速報性を帯びたものとして、支部と分会の情報交流をスムーズにするため」、1975 年 6 月 10 日に支部ニュース第 1 号を発行することになった。当時の支部内発行誌は、『京都の科学』(研究理論誌、年 2 回)、『京都の科学者』(全会員配付、月 1 回)、『支部ニュース』(分会役員配付、月 2 回)であり、支部ニュースは支部常任幹事会と分会の通信手段であった。第 1 号の内容を見ると、全国大会の簡単な報告が載せられ、会員が 1,000 人増えて約 9,800 人に達したとある。当時の本会の勢いが窺われる。支部内研究会として公害研究部会や災害問題研究会の発足が報告されている。また、原発問題研究会やアセスメント・基準研究会の例会が予告されている。

第 100 号は 1991 年 4 月 10 日に発行された。この頃には、支部ニュースは毎月 1 回の発行になっており、支部内の中心的な広報媒体となっている。前号に支部定期大会の報告があり、支部会員は 490 人ほど、全国会員は 9,100 人余りであった。4 年間減少傾向にあり、全国事務局からは財政状況の逼迫が叫ばれている。第 100 号では、蒸気発生器細管破断の美浜原発 2 号機事故の緊急シンポジウムの報告が掲載されている。また、第 98 号では、当時の支部事務局長倉知三夫氏の談話として、「中東湾岸戦争と日本科学者会議の役割」が発せられている。30 年以上経過した今でも、国内外で同様の課題が存在することが何とも悩ましい。なお、101 号では支部定期大会報告として月 1,000 円から 1,100 円への会費値上げが報告されている。その後、2013 年に現行の月 1,200 円に改定された。

第 200 号は 2000 年 11 月 10 日に発行された。上野鉄男事務局長の訴えが掲載されており、関西大学で開催された第 13 回総学への協力が呼びかけられている。また、毎号に、京大宇治、京大工学部、京都府立大、立命館大などいずれかの分会例会の報告と同時に個人懇談会の記事が掲載されており、分会と個人懇談会が両輪で活動していたことが分かる。

第 300 号は 2009 年 2 月 13 日に発行された。富田道男代表幹事が『京都支部ニュース』300 号を記念して」と支部ニュースの役割を振り返りながらデジタル化を予告している。前年の 11 月には、300 号発行記念の市民講座として関下稔氏による「世界金融危機と日本経済の行方」が開催され、その講演録が収録されている。また、この頃には『日本の科学者』の読書会が開催され、毎号その報告が掲載されている。この読書会は今でも継続されている。また、関西民間技術者研究者懇談会も毎月開催されている。この頃には分会活動の報告は少なくなり、発足後 10 年を迎えた個人懇談会の活動が活発となった。2010 年の新年会も支部と個人懇が別日に開催

されている。

第 400 号は 2017 年 6 月 10 日に発行された。左近拓男事務局長による全国大会の報告が掲載された。当時の支部代表幹事であった宗川吉汪氏が京都支部代議員として、大会決議案「原発ゼロ社会の建設にむけて」を提案し採択された経緯が掲載されている。2011 年の福島第 1 原発の事故後の JSA 内の原発に対する方針が確立したと思われるが、「放射能公害」との提案については継続審議とされ、被曝影響を考える活動に引き継がれた。同号には支部定期大会の報告も掲載され、出席した志岐常正氏による JSA 活動全般に対する改善案が提案された。「科学者会議は危機にある」から始まる 8 項目の提案は今でも新鮮である。

以上、支部ニュース通算 500 号を迎えた京都支部ではあるが、単純にお祝いでいる状況でもない。会員数は全盛期の 3 分の 1 を切り、年齢構成も高齢化が進み、基礎となる職場分会はほぼ崩壊している。一方で、国内外の情勢は激動しており科学のサポートが正しく発揮されることを求めている。全国および支部会員全体の力でぜひ打開していきたいと考える。皆さまのご協力を切にお願いします。

追悼：佐藤文隆さんのご冥福を祈る

京都支部：山田耕作

佐藤文隆さんが 9 月 14 日に細菌性肺炎で永眠された。87 歳であった。昔の京大物理の同僚たちと残念なことだとメールで話した。物性物理が専門のわたしとは物理内部での分野は異なり、佐藤さんは宇宙物理学・相対性理論が専門であった。1973 年、富松彰氏とアインシュタイン方程式におけるトミマツ・サトウ解を発見したことで有名である。この業績により富松氏とともに仁科記念賞を受賞された。その他、豊かな才能の持ち主で幅広い研究をされ多くの受賞がある。同時に優れた研究者を育てられた。

基礎物理学研究所の所長や京大理学研究科長として研究所や大学・学会の運営面でも手腕を発揮された。

私は基礎物理学研究所と京大の物理教室で佐藤さんと共に過ごしたが、誰とも気さくに話しかけられるお人柄であった。一緒に入試問題を作成したことも懐かしい思い出である。たくさんの解説書があり、ご著書の話をするに「言ってくれば本をあげたのに」とよく言われたものである。ずいぶんむかし、ビッグバン宇宙論はどこまで確実ですかと聞いたことがあった。答えは膨張する宇宙が、現在から、今の千分の一くらいまでさかのぼる時代までの理解は確実だということであった。最近では、どう考えておられるかお聞きしたいものである。

Youtube に「量子力学 100 年」の佐藤さんの講演がある。懐かしい声が聴ける。

講演「量子力学の 100 年」佐藤文隆（京都大学名誉教授）2025 年 9 月 11 日

<https://www.youtube.com/watch?v=DUKlnA1X32U>

**治安維持法 100 年記念事業の講演報告：「もの言わさぬ国家は NO！
京都のつどい 治安維持法 100 年を問う」**（治安維持法 100 年企画実行
委員会主催）・**関連書籍紹介** **清水民子**

9 月 27 日（土）13：30～15：30，ウィングス京都・イベントホールおよびオンラインで開催
されました。参加者，会場 300 人，オンライン 40 人。

講演の荻野富士夫氏（小樽商科大学名誉教授）は『治安維持法一〇〇年-「新しい戦中」にしないために』（大月書店）の共編著者のひとりです。演題『「新しい戦中」にしないために』は「新しい戦前」が話題となってから 3 年、「新しい戦中」前夜に突入しているのではないかとの問題提起。治安維持法の悪法性，残虐性は小林多喜二の例もあるが，特高警察は検挙，起訴，予審（この段階で拷問が用いられ），裁判，有罪なら刑務所，刑期を終えると保護観察として監視が続けられ，予防拘禁もあった。治安維持法の運用状況としては，国内第 1 号は「京都学連事件」であるが，続けて北海道で文化活動におよび，公式統計では 6 万 8000 人，7 万人弱が検挙されたと推定される。検挙者中起訴されたのは約 1 割，中心人物あるいは 2～3 回検挙された者。学生などは留保処分とされた。1932-33 年がピークとなっている。植民地朝鮮，台湾，満洲においてはより過酷に運用され，執行猶予なし実刑，死刑が課されるようになったもとので，国内での死刑判決はないが，朝鮮では 5-60 人，台湾 2 人，満洲（法を制定）2000 人に死刑が実行されたと推定される。運用は宗教団体にも及んだ。フレームアップによる「京大俳句事件」，「横浜事件」，文化（文学・演劇）分野におけるシュールレアリズム運動なども弾圧された。こうした動きは世界の流れとして欧米の治安法にも見られ，支配層の危機感を背景に資本主義化先行国に学んだといえる。「国体」を掲げる参政党の憲法草案など，現代版治安維持法の危機を警戒しなくてはならない。

後半は井口和起氏（京都治安維持法研究会・編集・執筆者）や国賠同盟代表はじめ実行委員会諸団体（労働団体，女性団体，政党，医療団体）諸氏のスピーチがありました。

〔書籍紹介〕

京都治安維持法研究会・編
『レジスタントの京都 治安維持法下の青春』
（日本機関誌出版センター，全 254 頁）
（付）治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟京都府本部・編
『京都関連治安維持法犠牲者名簿 CD 版』

書店で所在を確かめるため，「治安維持法」で検索をかけると即『レジスタント…』と出てき

ました。(ああ、そやった、レトロな題や!).

第一部【座談会】 京都で考える治安維持法百年とこれから-出席者(原田完, 井口和起, 岡田知弘, 勝村誠, 本庄豊, 薮田均男, 佐藤和夫)は編集・執筆にあたられた方々で, 京都における弾圧事件, 労働運動・学生運動・文化学術分野の活動のからみあいを論じておられます.

第二部 治安維持法の実態と抵抗した京都の人々-特高警察の取調べにおける拷問-身体的, 心理的拷問, 女性に対する性的暴力の非人道的実態と弾圧の対象が広げられていった歴史が記されています.

第三部 レジスタントの京都Ⅰ 治安維持法違反事件-京都学連事件(岡田知弘), 滝川事件(同), 第二次大本教弾圧事件(本庄豊), 捏造された「京都人民戦線事件」(井口和起)を取り上げ, 概説, 分析されています.

第四部 レジスタントの京都Ⅱ 弾圧された人々-有名無名の以下の人々ほかについて, その活動と弾圧の経緯, その後の生き方が紹介されています. 河上肇, 住谷悦治, 石田英一郎, 香川信雄, 栗原佑, 河田賢治, 山本宣治, 淡徳三郎, 安達征一, 倉岡愛徳, 鈴木安蔵, 向仲小雪・寅之助, 和田喜太郎, 永良巳十次, 平原静塔, 渡辺白泉, 中西伊之助, 谷口善太郎, 事件はマルクス主義経済学弾圧, 京大附属病院看護婦スト, 赤色モップル, 新興教育運動, 大阪商大事件, 横浜事件, 雑誌「リアル」など. 京大俳句事件のばあい, 「戦利砲 寡婦とぼつんと市府の暮」(静塔)の句が<反戦思想を含蓄する作品>であり, 「プロレタリアリアリズムに迄進展するところがなく…」という作品回顧が「新興俳壇は階級の運動に迄進展すべきことを示唆」しているとして静塔ほか3人が懲役2年執行猶予3年. 朝鮮人(日本国内居住, 尹東柱・宋夢奎ら40人を数える)にも触れています. 日本国憲法第34条「公務員による拷問及び刑罰は絶対にこれを禁ずる」は京都学連事件で検挙された鈴木安蔵が「憲法研究会」の憲法草案に盛り込んだのが生かされたのだという記述も貴重に思われます.

私の恩師S教授(1931年大学卒)は雑談の時間になると若き日の武勇伝を語りました。「京阪三条の駅前広場でミカン箱を置いて演説するとすぐ引きずりおろされ, 連れて行かれるから, 次が箱に載って演説する…」「川端署のブタ箱でお世話になった」. ほぼ同年配の私の父(1935年卒)は演説とまではいかず, 「下宿においておけない書類は私が預かっていた」と母の言. 書類を隠すのもそれなりの「レジスタンス」, 書中に出てくる人々は, 当時の学生たちのヒーローだったのかと思われます.

【予告(既報)】

治安維持法・京都学連事件100周年共同シンポジウム

(治安維持法・京都学連事件100周年事業実行委員会

逆流に抗して、自由を求めた青年たち

治安維持法国内適用第1号の「京都学連事件」100年を問う

日時: 12月13日(土) 13:00~16:30

会場: 立命館大学朱雀キャンパス(JR二条駅近く)

支部主催・関連行事

1. 京都支部10月読書会(ZOOM)

日時: 10月21日(火) 15:30～17:30

日本の科学者2025年9月号「学問の自由と揺らぐ基盤」

広渡論文(左近)／隠岐論文(清水)／井原論文(竹中)

<https://us06web.zoom.us/j/86292178105?pwd=jammTOpy78NDaEkB8YSUItEqKDM9UU.1>

ミーティング ID: 862 9217 8105

パスコード: 104883

2. 11・3 憲法集会

日時: 11月3日(月)13:30 オープニング 13:30 講演/市民アピール 15:15 憲法ウォーク

場所: 円山公園音楽堂

講演: 高橋純子氏(ジャーナリスト、朝日新聞論説・編集委員)

「戦後・被爆 80 年 戦争しない させない 憲法生かして平和をつくる」

主催者: 憲法 9 条京都の会、9 条改憲 NO! 全国市民アクション・京都

3. 第1回日本科学者会議PFAS問題全国シンポジウム(オンライン ZOOM 開催)

日時: 11月9日(日)9:00～17:00

★参加申し込みは、下記の Google フォームからお願いします。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSepgc6rZccpEsK-gjw0D0EijRfvcPp3OzEVp01ZKHYPVvic3Q/viewform?usp=header>



★Zoom 参加の登録は、下記の URL からお願いします。

<https://us06web.zoom.us/j/87216880854?pwd=7eY8ykofjXdb58jlkJYGi3gBRTILE.1>

ミーティング ID: 872 1688 0854 パスコード: 254936



プログラム

9:00 開会あいさつ 畑 明郎(PFAS問題研究委員会委員長)

9:05 基調講演1 小泉昭夫・京都大学名誉教授

「吉備中央町PFASに関する健康影響評価の暫定結果報告の問題点:

住民による登録研究の可能性」

9:50 基調講演2 原田浩二・京都府立大学教授

「PFASによる環境汚染の事例と今後の課題」

10:35～10:40 休憩(以下の発表は発表 15 分、質疑 5 分とします)

10:40 発表1 金谷邦夫(大阪PFAS汚染と健康を守る会)

「ダイキン現場労働者にみられた間質性肺炎～PFOA粉塵吸入が関与？」

11:00 発表2 丸尾牧(兵庫県議会議員)

「兵庫県明石川のPFAS汚染調査と宝塚市民血液検査結果」

11:20 発表3 安富政治(京都府あやべPFAS汚染から健康を守る会準備会)

「産業廃棄物管理型最終処分場からの高濃度PFAS流出」

11:40 発表4 近藤 正(秋田県立大学生物資源学部・秋田支部)

「秋田市とその周辺にある産業廃棄物処分場からのPFAS流出」

12:00～13:00 お昼休憩

13:00 発表5 笹嶋貞子(秋田県大館市PFASと市民の健康を考える会)

「河川のPFAS汚染対策を求めて」

13:20 発表6 畑明郎(元大阪市立大学教授・滋賀支部)

「京都府と滋賀県のPFAS汚染」

13:40 発表7 松岡武夫(四日市公災害市民ネット)

「三重県四日市のPFAS問題と公害の教訓」

14:00 発表8 鈴木孝雄(清水PFAS問題を考える会連絡会)

「静岡市清水区PFOAの現在、過去、未来」

14:20 発表9 今尾明美(PFAS汚染からいのちと水を守る各務原市民の会)

「岐阜県各務原市における2回目の血液検査結果と現状」

14:40 発表 10 長岡ゆりこ(大阪PFAS汚染と健康を考える会)

「大阪PFAS汚染と健康を考える会の活動・運動」

15:00～15:10 休憩

15:10 発表 11 和田壮平(ダイキン公害問題を考える会)

「公害行政の進歩と退化:ダイキンPFOA問題に対する公害調停の取り組み」

15:30 発表 12 小橋かおる(有害物質に関する人権擁護者/HR Defender on Toxics)

『ビジネスと人権』から考える企業由来のPFAS汚染:汚染事業者の責任とは？」

15:50 総合討論:PFAS汚染にどう立ち向かうか？

16:55 閉会あいさつ

17:00 閉会

4. 第195回 科学カフェ京都

日時: 2025年11月15日(土) 14:00

場所: 京都大学 理学部 セミナーハウス

話題: 『湯川秀樹旧宅の京都大学への移管と現状について』 <https://cs-kyoto.net>

提供: 岡田 知弘 先生 京都橘大学・学長 (専門:経済学・地域経済学)

招聘: 坂本理事

要旨: 私は、偶然の縁から、湯川家からの依頼にもとづき、湯川秀樹博士の終の棲家となった下鴨泉川町

の旧宅を、「湯川秀樹旧宅の保存と活用を願う市民の会」の代表として京都大学に移管する取り組みに関わるようになった。すでに建物については、長谷工コーポレーションの手によって修築され、京都大学に移管され「下鴨休影荘」として一部利用されている。併せて、旧宅には、多くの史資料が残されており、市民の会として、それらの分別を行った上、しかるべき史資料の仮目録をつくり、京都大学に寄贈する作業も行った。本講演では、その経緯とともに、旧宅に残されていた史資料を大きく区分しながら、特徴的な資料に関わるエピソード、さらに今後の課題などについて私見を述べてみたい。

5. 治安維持法・京都学連事件 100 周年共同シンポジウム

日時:12月13日(土)13:30~17:00

場所:立命館大学二条学舎

講演・報告:◎京都学連事件について、

- ①国境を越えたエスペ란ティスト・長谷川テル(奈良)
- ②淡徳三郎の「フランス人民戦線」などの通信活動(京都)
- ③反ファッショの学生運動・大阪商大事件(大阪)
- ④大学の自治の現在と学術会議の危機(日本科学者会議京都支部*)(*本支部からの報告は支部幹事・河音琢朗氏(立命館大学)が担当されます)
- ⑤会場からの発言。

主催:治安維持法・京都学連事件 100 周年事業実行委員会、日本科学者会議京都支部

◆◆◆◆ 支部幹事会だより ◆◆◆◆

1.会員の現況(10月1日現在)

一般会員: 144
 特別会費会員: 4
 家族割り特別会費会員: 2
 若手会員: 13
【会員合計】 163 人 読者: 3人

2. 会費納入状況 (10月1日現在)

一般 93/144 特別 1/4 家族 1/2 若手 4/13

※ 前納の会員 8 人(すべて一般)を含む。

3. 2025 年9月決算

2025年度累計		2025年9月決算	
収入累計	1,394,847円	9月收入合計	59,735円
支出累計	1,086,036円	9月支出合計	202,485円
収支累計	308,811円	9月分収支 △	142,750円
前年度繰越金	173,345円	前月繰越金	624,906円
9月末残高	482,156円	9月末残高	482,156円